

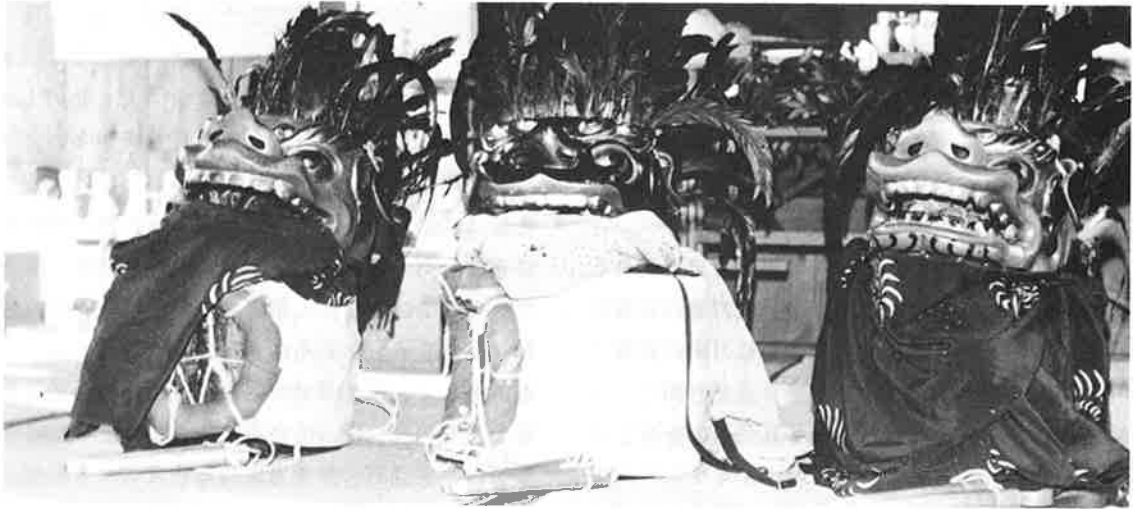
財団だより

多摩川

1985. 3. 第25号



カワトンボ (カワトンボ科)
 腹長40~50mm。出現期4
 ~7月。頭胸部は光沢あ
 る金屬緑色。翅は透明ま
 たはみかん色。おもに溪
 流~上流部で羽化。



狭間町にある氏照贈与の獅子頭 (中央が雌、左右が雄獅子)
 写真 北島藤次郎氏提供

■ 多摩川博物誌 ■

⑨ 獅子舞 (主に八王子市、青梅市、奥多摩の各神社)

この月に、各所に獅子舞が行なわれる。八王子山内の獅子舞をささら舞と呼ぶ。これは伴奏の楽器にささらというものを使うことからの呼び名で、獅子舞には変わらない。獅子は田遊び行事のところで触れておいたが、除魔招福をする動物として、それに演技がついたものを獅子舞といった。4月になって、この獅子舞が目立つように見られるのは、5月が稲の苗植え時期になるので、その田を清めておくために獅子によって田の除魔を行なうことから、稲作りが東京付近で行なわれていた名残りである。いま田圃は住宅地になってしまったので、獅子舞を行なう理由が薄らいでしまい氏神社の一般祭礼行事のようになってしまった。

獅子舞の形式は各所で違うが、関東方面のもの

は大体同形で3匹獅子の舞になって、雌獅子がくしというものが主になっている。雌獅子が隠されたのを雄獅子が探し出して、目出たし目出たしという劇的なものである。これへ太刀がかり、棒がかり、橋がかりといったものがつく。

獅子頭は各所とも異同があって一概には定型は出し得ない。獅子唄も各所とも違うが、

へ回れや水車、おそく回りにてせきに舞うよな

へ鹿島からきりぶし習えに匠が来て、習い申すよ鹿島きりぶし

へ思いもよらぬ朝霧がおりて、そこで雌獅子がかくされたよ

へうれしやの風のかすみを吹きあげて、雌獅子雄獅子が肩をならべる

へ日が暮れて道の根ざさに露あげて、我等も早く宿に戻ろう

といった歌詞が謡われている所が多い。

「東京生活歳時記」社会思想社・1971

多摩川散歩

●八王子の獅子舞い

多摩歴史研究会々員 北 島 藤次郎

八王子ではお祭りのとき、昔ながらの獅子舞いが多く奉納されている。ざっと数えただけでも、十指に及んでいる。

- ①美山町 日枝神社 (彫獅子) 四月第二日曜
- ②美山町 琴平神社 上記と同じ
- ③梅坪町 天神神社 (彫獅子) 四月中旬、中止中
- ④小津町 熊野神社 (小津獅子) 八月中旬日曜
- ⑤狭間町 御嶽神社 (狭間獅子) 八月二十日ごろ日曜
- ⑥諏訪町 諏訪神社 (竜頭獅子) 八月二十六日
- ⑦高尾町 氷川神社 (氷川獅子) 八月第三日曜
- ⑧上川町 今熊神社 (今熊獅子) 八月末の日曜
- ⑨上川町 田守神社 (田守獅子) 上記と同じ
- ⑩石川町 御嶽神社 (竜頭獅子) 九月二十日ごろ日曜

そもそもこの獅子舞いは、農作信仰に基づき平安時代から宮廷や社寺で、五穀豊作の祈願や悪魔払いの神事として行なったもの。室町時代になってから、民間でも行なうようになったのだという。はじめのころは鹿頭を使っていたが、その後は唐獅子に変わり、今では高麗伝来の獣、狛犬に似た型と竜の型が多く使われている。

霊亀二年(716)に亡命した高麗人、千七百余名が八王子に近い今の埼玉県へ、高麗郡を形成したからその影響もあって、獅子頭が高麗や竜の型になったのかもしれない。

前記の表によると、彫(竹を細く割って束ねたもの)を鳴らして舞うものを彫獅子といい、竜頭をかぶって舞うものを、竜頭獅子といっている。舞いの種目も色々あって、牡獅子二頭が牝獅子一頭を奪いあうものも

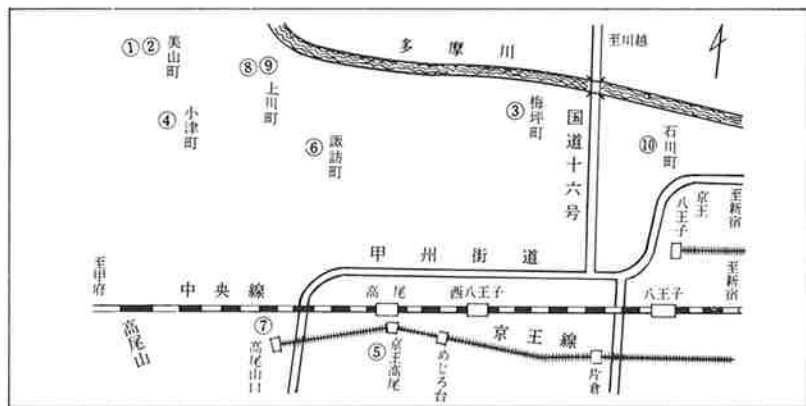
あれば、太刀をもった壮者と牡獅子が闘う勇壮な舞いなどもある。

でも、これらの舞いは豊作祈願が目的だから、雨乞いを兼ねる所もあり、八月ごろに演ずる所が多く、このころの舞いを“豊年獅子、といい。四月ごろの舞いは悪魔払いが目的だから、“祈願獅子、というのだという。また、農作に関わる舞いだけに、市街地では少なく、農耕地域に多く伝承されている。だが、最近では農家の人も勤め人が多いから、祭礼日を日曜に変更した所が多い。

ところで八王子に獅子舞いが多いわけは、安土桃山時代の八王子城主、北条陸奥守氏照が横笛が好きで、獅子舞いの囃子に魅せられたのが、もどったのではないかと推定されている。だから永禄(1565)のころに、梅坪の天神様へ獅子頭を寄進しており、今でも笛は氏照愛用のものと同じ型のものを、使っているのだという。

また、狭間町の鈴木家に残る古文書によれば、ここの集落へも獅子頭を贈与し、毎年3月と8月に登城して、武運長久の獅子舞いを演ずるようにとの申しつけ、但し笛だけは氏照自身が吹くからの仰せであったとある。今でもこの町では御嶽神社の祭礼に、四百年以上もたったこの獅子頭を使って奉納しているのである。

それにしてもどの町内でも、獅子舞いの後継者が少なく、このままでは伝統ある民俗芸能も廃れると、痛感しているのが実情である。



八王子の獅子舞が行われる神社所在地 ※番号は本文と照合



ハヤ釣り風景（昭和55年8月・多摩川青梅地先）

● 流れと人と魚と……

日本民俗学会々員・安齋宣伝研究室代表 安齋 忠雄

その昔、多摩川の流域一帯をうるおす清らかな流れは、当時の人たちのくらしと密接にかかわりあい、流れを中心に豊かな生活文化が息づいていた。この恵みの流れも、時には濁流となって流域をおびやかすこともあったが、川は再びおだやかな表情をとりもどし、それまでと同じように流域一帯をうるおしつづけた。昔の流れと人との間には、ゆるぎない信頼と安らぎに満ちた調和があり、たとえ生活は貧しくとも、流域の人たちは心豊かにくらしていた。

ゆるやかな丘陵部を望みながら、のどかな田園地帯を蛇行する昔の多摩川には、川を下る筏がひきもきらず、流れには布をさらす人の姿が見られた。また、渡船場で船待ちした人たちがのんびりと川を渡し、夕暮れともなれば、流れには牛馬を洗う農民の姿が見られた。多摩川の水は川沿いに開けた沃野をうるおし、上流の水は、江戸時代から都市の生活用水として、重要な役割りを果たしてきた。その頃の豊かで清らかな流れは、文字通り流域の生活基盤を支える生命線であった。

また恵み豊かな多摩川は、流れにさまざまな魚を育ててきた。冬から春の初めにかけて、河口からは白魚の群れが産卵に上り、白魚の季節が終ると間もなく、稚鮎が川面を真黒に染めながら上りはじめた。この頃、河口からは体長が50センチもあるマルタが元気な姿を見せ、またハヤも産卵期

に入るの、それぞれに小砂利の川底に群らがあった。夏が近づくと、上流から海に降った山女魚が、見違えるような鱗になって故郷の川に姿を見せ、上流目指して一斉に上りはじめた。

多摩川の流れは、季節ごとに行き交う魚で賑わったが、^{ウツク}鯿などの居着きの魚は、川底の石にへばりついて彼らの往来を眺めてくらししていた。また、夜の川は^{サマス}鰻や鮎たちの世界で、彼らは暗い流れの中をわが者顔に泳ぎ回り、手当たりしだいに餌を呑みこみ、鮎も清流に自分の縄張りをつくり、川底の石に生える藻を喰みながら大きくなっていった。

やがて秋になると、抱卵した鮎や鰻が出水とともに降りはじめ、モクズガニも川底伝いに海に出る。岸に薄氷の張る季節に入ると、鯿は産卵の準備のため餌あさりに忙しく、生命力に満ちあふれた多摩川は、春夏秋冬、昼も夜も一時も休むことなく、流れに魚を育みつづけていた。

この豊穡な流れのほりに住んだ人たちは、昔からさまざまな方法で魚をとってきた。長い間の体験による英知の結晶ともいべき^{すなわち}漁の技法は、代々にわたって流域の人びとに受けつがれ、多摩川の伝統漁法をゆるぎないものにしてきたが、川の荒廃とともに、これらのすぐれた技法も終りをづけることになる。多摩川の変貌は、それまでの流域との関係を一変させた。流れに筏の姿が絶えて久しく、河口からはもはや鱒や白魚は上ってこない。

かつて流れと人との間には、生活を通してさまざまな交流が見られたが、今や流れは汚濁に沈滞し、時には異臭すら放っている。現実には眼にするものといえば、洗剤の泡にまみれた黒い流れと川離れした流域の姿でしかなく、他にもない多摩川をこのようにしたのは我われであり、瀕死の流れは、流域社会に対してその責任と自覚をきびしく問うている。現代といえども、流域社会は川に依存しなければ生きられず、流れは流域の心を映し出す点において、昔も今も変りはない。今や瀕死の川沿いに、うたかたの繁栄を競う街並は空しげで、欲望のみをたぎらせる風潮の中で當なまれる現代生活とは、何やら不気味である。



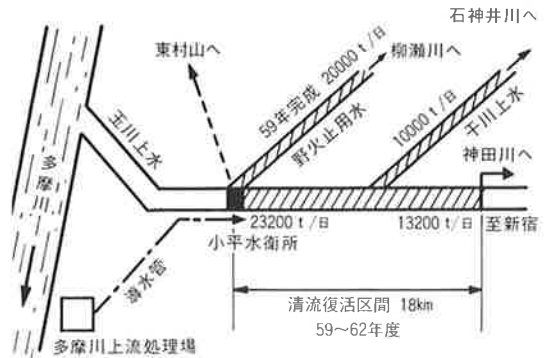
●玉川上水の清流化計画

山 道 省 三

1654年に開削された玉川上水は、不毛の武蔵野台地に新田開発をもたらすとともに、江戸市民の生活用水として大きな足跡を残してきた。以来300年以上をへ、最盛期には34の分水が引かれたものの、現存するものはわずかとなり、玉川上水そのものも大きく姿を変えた。昭和38年、羽村取水堰から小平水衛場までの12kmを残し、新宿までの約25kmは空堀または暗渠と化し上水道の役割を失ってしまった。水の通らない水路はそのまま放置され、側壁は崩落し、ゴミの不法投棄などもあって水路は荒れるにまかせていた。しかしながら、水は流れないまでも水路敷はクヌギやコナラ、ケヤキなどの落葉樹が茂り、その連続した緑地は都市化の進む武蔵野にとって貴重な緑地として残されてきた。

玉川上水に水を流そうとするきっかけとなったのは、48年に平林禅寺の自然と文化を守る会（会長、中西悟堂（当時））による野火止用水の歴史環境保全地域指定と用水の保全に対する要望書の提出にはじまる。これにより埼玉県は東京都に対し重ねて清流の復活を要望するが、上水からの分水について都は水事情のひっ迫を理由に下水処理水の導水を代案とし回答するなどのいきさつがあり、やっと昨年8月に日量20,000tの処理水が通水されることになった。（写真）

清流計画模式図



この通水の成功を得て東京都は「緑の倍增計画」（昭和59年度発表）の中に玉川上水・千川上水などの清流化事業を推めることとなった。計画では、59年度から6ヶ年事業とし、多摩川流域下水道多摩川上流処理場の処理水を利用して通水を行い、ひいては流末となる神田川や善福寺川の清流化をめざそうとするものである。

玉川上水では、すでに10年程前から緑道整備が推められてきた。この事業も60年度以降さらに推められるが、水路の補修についてはすでに始まり、62年度まで約20億円の予算で通水が完了することになっている。放流量は現在野火止用水に20,000t/日に加え、玉川上水に23,200t/日、そのうち三鷹市内から分水する千川上水に10,000t/日が分水される。

昨年の秋、通水が始まった野火止用水を歩いてみた。西武拝島線の玉川上水駅から清瀬駅に至る10kmであったが、用水沿いにつらなる色づいた樹林はこれが東京かと思える程すばらしい樹林帯であった。放流水はやや下水臭が残るものの、まだ水の流れていない玉川上水に比べ生きた水路であった。放流される水質が今ひとつ改善されるなら、かつて夏の夜を乱舞したホタルの復活も夢ではなかろう。

財団の事業紹介

〈研究助成〉

昭和59年度（第2次選考）研究助成課題が決定しました。今回決定した研究は、A類研究1件、B類研究1件です。研究課題は次のとおりです。

研 究 課 題	代表研究者	所 属
<p>〈A類研究〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多摩川流域における水質汚濁指標に関する研究 — ふん便汚染指標細菌と汚濁物質との関連— <p>〈B類研究〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 等々力溪谷（谷沢川）の武蔵野台地露頭の地層中に含まれる化石珪藻の研究II（上総層群について）及び東京層と上総層の珪質原生動物の研究 	<p>尾 藤 朋 子</p> <p>小 出 悟 郎</p>	<p>神奈川県立衛生短期大学助教授</p> <p>神奈川県内広域水道企業団 水質試験所長</p>

● 多摩川'84の発刊

本号は、財団10周年を記念して昨年9月に発刊しました。総集編は「多摩川は変わったか？」をテーマにこの10年の動きを追ってみました。

資料編は本来の目的とは異なり、財団による助成研究成果141件につき、その要約集として「多摩川助成研究紀要集」として編集しました。

〈新刊紹介〉

「都市と川」

まえばきにある「おそらく水辺は、都市空間のなかでも最も豊かな空間であろう。」とする著者の理念が、この本の底流に貫かれている。

都市の水辺がなぜ喪失したのか？ 全国に広がる水辺復権の動きがどうなっているのか？ 数多くの事例を取り上げ、検証し、そのあるべき姿を模索する。文中随所にみられる問題点の鋭い指摘は、著者が横浜の川で実践し経験してきた中から生まれたものである。それがこの本をまれに見る好書に仕上げている。

三木和郎著
人間選書69
(社)農山漁村文化協会(1,200円)
TEL 03-585-1141



春季多摩川流域の自然環境に関する催物一覧

多摩川流域で春行われる催物を掲載しました。詳細は各主催者に問い合わせ下さい。

● 展 示 会

開催日	行事名	主催者	参加方法
3月7日～3月13日	移動特別展「川崎の自然調査—2年目の記録」	川崎市青少年科学館 ☎044-922-4731	会場…麻生区役所正面ロビー
3月15日～3月19日	同 上	同 上	会場…幸文化センター市民ギャラリー
3月21日～3月31日	同 上	同 上	会場…青少年科学館学習室
3月9日～5月4日	多摩川の漁具展	府中市立郷土館 ☎0423-64-4111	会場…同館2階展示場

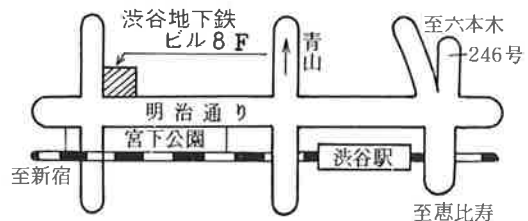
● 講演会・勉強会

開催日	行事名	主催者	参加方法
3月16日 (13:30～3:30)	講演とスライドの会「多摩丘陵の春の植物」	八王子市役所北野出張所 ☎0426-25-5031	会場…八王子市役所北野出張所・市内在住者で、3月5日までに往復ハガキで申込
3月17日 (9:30～3:00)	講演会「自然講演—ナウマン象について」 講師 富田 広	高尾自然科学博物館 ☎0426-61-0305	会場…同館・往復ハガキで申込
3月23日 (14:00～16:00)	講演会「多摩川あれこれ」 講師 三田 鶴吉	府中市立郷土館 ☎0423-64-4111	会場…府中市立住吉文化センター2階講堂
3月9日 (14:00～17:00)	中原市民大学講座「全国の河川・水辺事情」 講師 山道 省三	川崎市民館 ☎044-722-7171	会場…川崎市民館 対象…市内在住在勤の18才以上の方 (注)同講座は2月9日より開始されているので、受講希望される方は必ず同館に問い合わせる事。
3月15日 (18:30～21:00)	同 上 「川(水)に親しむI」 講師 進士五十八	同 上	
3月22日 (18:30～21:00)	同 上 「川(水)に親しむII」 講師 進士五十八	同 上	

● 自然観察会

開催日	行事名	主催者	参加方法
3月3日・4月7日 5月5日	多摩川探鳥会	日本野鳥の会東京支部 ☎03-364-6159	10時…京王線聖蹟桜ヶ丘駅 西口集合(参加自由)
3月10日・4月14日 5月12日	多磨霊園探鳥会	同 上	8時…多磨霊園 正門前集合(参加自由)
3月24日・4月28日 5月26日	高尾山探鳥会	同 上	8時…京王線高尾山口駅 駅前集合(参加自由)
3月21日	観察会「早春の花を調べよう」	川崎市青少年科学館 ☎044-922-4731	場所…生田緑地 前もって電話か直接同館へ申込
3月26日 (10:00～3:00)	観察会「早春の河川の植物」	世田谷区役所みどりの課緑化係☎03-412-1111	対象…区内在住者で、3月9日までに 書葉で申込
3月31日	観察会 「梅の木平・カタクリの里をたずねて」	八王子自然友の会 ☎0426-42-0977 畔上方	10時…京王線高尾山口駅 駅前集合(参加自由)
4月7日	多摩川を歩く会 「青梅万年橋～多摩川橋(羽村町)」	多摩川の自然を守る会 ☎03-480-8384 横山方	9時30分…青梅駅前集合 (参加自由)
5月12日	同 上 「多摩川橋～多摩橋(福生市)」	同 上	9時30分…小作駅前集合 (参加自由)
6月2日	同 上 「多摩橋～多摩大橋(昭島市)」	同 上	9時30分…牛浜駅前集合 (参加自由)

- 発行日 昭和60年3月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03)400-9142



*印刷所 雄文社 〒336 浦和市常盤9-11-1
TEL (0488)31-8125